

ホーム名：はるすのお家・阪南					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の勤務の中で理念の共有をし、実践に向けて取り組んでいます。	理念は各ユニットの玄関に立てかけているが、紙も古くなり余り目立っていない。	理念を書かれた紙は年月を経て目立たなくなっている。誰もが目に付く所にはっきり掲げることで入居者家族はもとより職員も実践に向け取り組むことができる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として交流出来るよう心がけているが、一部の入居者に限られてしまっています。	市の音楽会、能など文化的催しに行かれる人は出かけている。西鳥取小学校4年生の児童が5～6人のグループになって合計8回くらいホームを訪れ、ゲームや紙芝居、肩マッサージなどの交流が出来た。地域の方々に会うと挨拶も交わしている。	子ども達との交流の様子は壁面に写真や手紙が掲示されて、子ども達、入居者の表情は良かった。これからも継続されることを願う。地域の交流も徐々に広がって来ている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内での認知症勉強会等には積極的に参加している。また認知症サポーターとしても活動をすすめています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じての意見等を前向きに受け取り、より良いホームになるよう活かしている。市職員などの参加が無い為積極的に声を掛けていきたい。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催は出来ていない。阪南市、地域包括支援センター、自治会などの参加も無い。家族と職員で開いている。	とりあえず開いた会議の議事録を阪南市、包括支援センター、自治会、民生委員、婦人会に届け次回の日程をお伝えして参加の働きかけを更に続けられたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	一部の職員に限られてしまうが、市介護保険課、地域包括支援センター等と協力体制ができている。	入居者の手続きなど行政の指導を仰ぐときには相談に行っている。運営推進会議の参加ははただけていない。	市介護保険課には介護保険の改訂、条例の改正の情報を得たり、それに伴う指導を得るためにも良好な関係を更に続けられたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	ユニットミーティング等での研修をし職員の理解を得て身体拘束しないケアに取り組んでいます。	職員には身体拘束の認識をしっかり習得するようにミーティングでも行っている。湿疹をどうしても引っかく入居者には家族の承諾を得て症状が良くなる期間ミトンを使用したことがある。	拘束は身体拘束のみならず、玄関の施錠も拘束になる。門扉は施錠しているが玄関やユニット間の出入りは自由である。地域の人も前庭に気軽に入ってもらえるように門扉は曜日や時間を決めて開放することも試みて欲しい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束となる一例をあげ、ミーティングにて理解を得ている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業を利用している方がいない為、職員の理解が低いので社会福祉協議会との連携も大切にしています。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は事業次長が立会い不安なく契約が出来る場をもうけています。後日の不安等に対しても説明出来るようにホーム長が速やかに対応するようにしています。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置しています。意見・要望等は記録に残し対応をしています。</p>	<p>家族・入居者の要望・苦情などはできるだけ早く解決を図り記録にも残し、職員全員に周知している。</p>	<p>家族がどんな事でも話すことが出来る関係も構築できていると窺えた。今後とも相談し易い関係を継続していただきたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>個別に出る意見等を検討し、必要に応じて事業次長へ報告出来る体制となっています。必要に応じて個別面談を行うように配慮しています。</p>	<p>管理者と職員の関係は良好でどんな事でも話しやすい。入居者の介護度の深まりにより、リビングの椅子を肘掛け椅子にすること、加湿器を増やすことは職員の提案で取り入れられた。</p>	<p>職員の提案が真摯に受け止められ、時に現場で反映されることは、働き甲斐を感じ意欲的に働くことにつながる。職員は明るくいきいきした表情と見受けられた。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>働きやすい環境作りを心がけています。資格手当・人事考課による評価制度を取り入れていきます。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の機会が少ない為、今後積極的に活用したい。内部研修にてケアの質が高まるよう働きかけています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市内の事業所連絡会等に積極的に参加し交流が取れているが、相互訪問は一部の職員のみとなっています。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>信頼関係を築く為にも、安心出来る環境作りに配慮し、寄り添う時間を作り、不安を解消できるように心がけています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族様の今までの悩みや不安を聞き、これからの生活に対しての要望等を聞き入れる時間を設けています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族様からの情報だけでなく、ご本人様との面談時間を設け、必要となる支援を見極め検討するようにしています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活する家族と捉え、共に過ごす時間を大切に過ごせるようにしています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来訪時に状態の報告をするだけでなく、家族間の関係を大切に考えています。ご家族様との信頼関係も大切だと考えます。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会や外出等に特に制限は無く、関係を継続する事が可能です。家族様の理解をいただき、気軽に立ち寄ってもらえる事も伝えていきます。また来訪者が気兼ね無く過ごせるホーム作りを心がけています。</p>	<p>家族以外馴染みの方の来訪はたまにある程度である。地域密着になって以後の入居者は近所の散歩時に知り合いの方に会うこともある</p>	<p>来訪者は少ないが、年賀状書きのお手伝いもしている。馴染みの方との関係の継続の支援を今後も図りたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士が共に関わりをもてるように支援しています。状況によりますが、支えあう光景が見て取れます。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約の終了後も必要に応じ相談等の支援を続けているが、積極的には行っていない。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活が送れるように、思いに気づき支援できるようにしています。	職員も経験年数、世代も20代～60代と幅もある、ベテラン職員が経験談を話し、若い職員が聞く事により、一日も早く入居者の要望や思いをくみ取れるように管理者は指導している。	高齢者介護は思いに副うということに尽きると言える。介護者の心に頼ることと研鑽あるのみである。これからも更なる研鑽の継続を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時にご家族様より情報をいただき活用しています。またご本人様からの話も大切に記録に残し職員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理の無い生活が送れるよう入居者様の状態の把握を大切に記録に残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態を把握し、ご本人様の意見、ご家族様の意見を取り入れて介護計画を作成しています。毎月のモニタリングや家族様からの要望を取り入れ、必要に応じてプランの見直しも行います。	介護計画は3ヶ月6ヶ月と見直すが基本的に6ヶ月で作成、必要に応じてその都度見直している。介護者・医師・家族の意見、入居者の要望を入れて作成している。	日々の介護の記録が基となる、木目細かい観察や医師の診察記録・意見を活用していただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を支援記録として記録に残し、情報として共有しています。また毎月のモニタリングにも活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの穏やかな生活を続ける事を大切にしていますが、状況に応じご家族様と相談し対応出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様の協力が必要にもなりますが、地域の一員としての生活が送れるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望を尊重し、適切な医療が受けられるように支援をしています。またホームと連携ある医療機関とも良い関係を保っています。	かかりつけ医の受診を希望している入居者は家族が対応しているが、事情ある時は職員が付きそっている。殆どの入居者は、提携医療機関の訪問診療を受けている。問診や処方、治療方針は記録し、他の職員も情報を共有している。	受診には職員が立ち会い、喉の痛みや浮腫、蕁麻疹等本人の症状を伝達する支援をしている。認知症や、失語症の入居者が適切な医療が受けられるような支援をこれからも続けて欲しい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護師と情報の共有を大切にし、適切な医療へ結びつけるようにしています。また看護師の視点からも助言をいただき良い関係が築かれています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>管理者を中心に、病院関係者との連絡を速やかに行うようにしています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けてのご本人、ご家族様の考えを聞く体制を取っている。簡単に答えは出せないで、気持ちの変化にも速やかに対応出来るようにしています。看取り指針を作成し、住み慣れたホームでの看取りも行っています。</p>	<p>「重度化や終末期の対応の指針」に基づき、すでに入居者2名の看取りを経験している。延命治療を希望するか否か、本人や家族の意思の変化にも対応しながら、関係者と共に現在も重度化した2名の入居者の支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の高齢化に伴う重度化に備え、「安楽な体制の保持」や「疼痛緩和ケア」等医師や、看護師の指導の下知識や技術を習得して頂きたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の観察や対応方法の理解は出来ているが、定期的な訓練が行っていない。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災機器の使用法の確認は定期的に行っています。地域への働きかけが出来ていない。要援護者が生活するホームとして市役所、消防の意見を取り入れていきたいと思っています。</p>	<p>災害時の避難訓練を3月に行う予定である。広域避難場所は西鳥取小学校となっているが、消防当局からは、取り敢えず駐車場か、一番離れた部屋に緊急避難するようにと指導を受けている。</p>	<p>備蓄品が賞味期限切れで、在庫が少なくなっている。速やかに補充をお願いしたい。尚、当ホームは海に近く、防潮堤が5メートルであることも気がかりな点である。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々に合わせた言葉使いをしています。また、言葉だけでなく表情などにも気を付けています。</p>	<p>入居者の人格を尊重した言葉遣いや、対応を心がけている。例えば見守りの必要性から、どうしてもドアを半開きにせざるを得ない場面でも、そのことに慣れてしまわないように心がけている。</p>	<p>管理者は職員に対し常に「自分に置き換えて」対応するよう指導している。今後もこの気持ちで臨んで頂きたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>共に生活を送る中で、共に過ごす時間を大切に気持ちを伝える事が出来る環境を整えています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の生活を大切に考えています。共同生活なので決まりもありますが、朝食時間や入浴時間などは希望に合わせてできます。天候により散歩や買い物等の希望にも合わせた支援をしています。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>個々に合わせ、在宅での生活と同じようにおしゃれが楽しめるようにしています。必要に応じてご家族様に理解も求めています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事準備と共にいい匂いがするホームなので自然と準備等の手伝いをして下さいます。職員も共に食事を楽しみ楽しい時間となるように過ごしています。</p>	<p>食事はユニット毎に職員が調理し、入居者と一緒に語らいながら楽しく食事している。使用後の食器は、入居者がカウンターまで下げるなど協力している。昔食べた懐かしい食べ物等希望のメニューも取り入れている。</p>	<p>「食事のメニューを知りたい」との家族の要望に応じて、食事のメニューの中から六食分を写真付きで紹介した。毎月のメニューを知らせたり、時には試食会の開催も理解が深まる。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>個々の健康管理の一環として、食事・水分量の把握を行い記録に残しています。必要に応じ医療機関へ報告しています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯科往診を始め、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄状態に合わせたケアを行っています。トイレでの排泄につながるように声かけ等を行っています。</p>	<p>個々の排泄パターンに合わせて、2～3時間毎に声掛けや誘導を行っている。オムツの利用者は無く、リハビリパンツや、パット交換で対応している。</p>	<p>排泄の自立は、気力の向上や自尊心の回復にも繋がるので、「オムツ外し」の支援が望ましい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個々の排泄状態を把握し飲食に取り入れています。運動も取り入れています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>安全でゆっくりとした入浴を楽しめるように支援しています。希望があれば毎日の入浴もできます。入浴時間は見守り等の安全に配慮し午後入浴をお願いします。</p>	<p>一人ひとりの希望に合わせて、毎日から週3回位、午後2時頃から1日4人位のゆっくりしたペースで、入浴支援を行っている。重度の入居者は、2人介助での対応となる。</p>	<p>入浴拒否の人が数名いるが、タイミングを見て再度声掛けをしている。羞恥心や、身体への負担感に配慮した支援を願いたい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。</p>	<p>個々の生活習慣や健康状態に合わせて休息や入眠出来るように環境を整えています。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤師との連携も大切にし個々の服薬管理を行っています。個々の服薬内容もすぐに確認が出来るようにしています。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしています。</p>	<p>個々の生活習慣や状態に合わせて支援を続けています。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や日々の買い物等の希望に応じて出かけるようにしています。また思いに気づき声かけをしています。普段は行けないような場所へは、ご家族様の協力も得て出かけられるようにしています。</p>	<p>希望に応じて買い物や、海や庭等への散歩に隔日のペースで出かけている。和歌山の緑化センターや外食とか、お花見でお弁当を楽しんだり、また、家族の協力で美容院に出かけることもある。</p>	<p>本人の希望を汲んだ外出支援に、職員、家族の他、地域住民の協力が得られると良い。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援しています。</p>	<p>個々の状態や希望に合わせて支援出来るようにしています。ご家族様の理解を得て協力してもらっています。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>必要に応じて対応しています。電話や手紙のやり取りを続ける事の大切さを家族様にも理解してもらっています。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様・家族様にとって心地よい空間となるように配慮しています。生活音は大切にしています。</p>	<p>共用の空間は明るくて、廊下も広い。壁面には干支の装飾や習字の作品が掲示されている。台所と食堂、居間はカウンターで繋がっており、食事の準備をする音や匂いは直に入居者に伝わり、正に懐かしい家庭がそこに存在している。居間の一角には畳の間が設えてあり、疲れた人が横になっていた。</p>	<p>門扉は若草色に塗り替えているが電子ロックされて、訪れる人をためらわせるような圧迫感がある。又玄関周りに小花等を置くと、優しい感じが醸し出される。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングのソファや庭のベンチがありますが、ダイニングも落ち着く場になっているようです。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安心して生活が始められるように、使い慣れた物を持参していただけるように協力してもらっています。布団・たんす・鏡台等持参してもらっています。</p>	<p>居室は入居者にとって大切なもの仏壇や筆筒、机や孫の写真、ぬいぐるみ等を置いている。セミダブルのゆったりベッドや、炬燵に布団等、各自のライフスタイルに合わせて、居心地良く暮らす工夫がされている。</p>	<p>時計やカレンダーは配置されて、入居者の見当識の後退予防に有効である。少し、尿臭の感じられる1居室は、換気と直接の原因を取り除く努力をお願いしたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています。</p>	<p>個々の状態を正しく把握し、また想いを受け取りながら声かけ等を行っています。当たり前の毎日を笑顔多く過ごせるようにしています。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない